

ようやく統一を達成した イタリアとドイツ



小国が分立していた
イタリアとドイツでも、
19世紀後半にようやく
統一が達成される。

イタリアとドイツの統一

ドイツの統一 ビスマルクの鉄血政策により、プロイセン主導による統一を達成。

1870年
セダンの戦い
モルトケ率いるドイツ軍がフランス軍を破り、ナポレオン3世を捕虜にした。

1866年
サドワの戦い
プロイセン軍がオーストリア軍を破る。

1866年
普墺戦争
プロイセンとオーストリアの戦争。プロイセンの勝利に終わり、ドイツはオーストリアと南ドイツ諸邦を除いて統一が進んだ。

1870~71年
普仏戦争
北ドイツ連邦とフランスの戦争。ドイツ側の勝利に終わり、アルザス地方とロレーヌ地方を獲得。

イタリア統一後 「未回収のイタリア」を除き、イタリア王国として統一された。

未回収のイタリア
チロルとトリエステは第一次世界大戦後にイタリアへ編入された。

イタリア王国

イタリア統一前 サルディニア王国、ローマ教皇領、ブルボン家の両シチリア王国などに分かれていた。

オーストリア帝国
ハプスブルク家が統治。ヴェネツィアなどを領有。

サルディニア王国
サヴォイア家が支配。首都はトリノ。

両シチリア王国
ウィーン会議(○p.104)後、ブルボン家が支配。

教皇の領地を取り上げて、 イタリア統一達成

19世紀半ばサルディニア王国を中心に、イタリア統一の機運が高まった。首相のカヴールは、フランスと密かに手を組んでオーストリアと戦い、ロンバルディアを併合。フランスにサヴォイアとニースを割譲してその黙認のもとに、中部イタリアを併合した。一方、青年イタリア出身のガリバルディは、千人隊を率いてシチリアに上陸し、両シチリア王国を占領してサルディニア王に献上した。

ビスマルクの「鉄血政策」で できたドイツ帝国

1861年、ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世を王とするイタリア王国が成立し、ヴェネツィア、教皇領(○p.71参照)を併合して、チロルとトリエステ(未回収のイタリア)を除くイタリア全土を統一した。

ドイツの統一をリードしたのはプロイセン王国で、オーストリアを除いた統一を目ざした。プロイセンの首相ビスマルクは、鉄血政策による統一を進め、1866年には普墺戦争に勝利をおさめる。これによりドイツ連邦を解体し、プロイセンを盟主とする北ドイツ連邦を成立させた。プロイセンの強大化を恐れるフランスは宣戦を布告し、普仏戦争となるが、プロイセンの圧倒的優位で推移するなか、プロイセン王ヴィルヘルム1世が皇帝に就任して、ドイツ帝国が成立した。

帝国の首相となったビスマルクは、工業化による経済成長、国内のカトリックへの差別(文化闘争)、社会主義者への弾圧と社会保障制度の拡充を合わせた政策などにより、国力増強と国民統合を図った。

鉄血政策

1860年代、プロイセンの首相ビスマルクが、ドイツ統一に際してとった政策。首相就任直後の演説で「現下の問題は言論や多数決ではなく、鉄と血によって解決される」と言明したことに由来。武器となる鉄と兵士の血による軍備増強をもって統一を進める決意を示したもので、その軍事力で隣国を破り、ドイツ統一を達成した。

Key Word